

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	06		
法人名	株式会社ユニバーサル山形		
事業所名	グループホームつばさ栄町		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字横道13-2		
自己評価作成日	平成30年 1月 2日	開設年月日	平成25年 3月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成30年 2月 16日	評価結果決定日	平成30年 2月 27日

# (こもれび ユニット)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご高齢な利用者様が多い中、日常生活動作や心身の機能が著しく落ちる事の無いように自立支援を行っている。「今、できる事」を続けて貰いながら、日々笑顔で過ごせるように利用者様同士の関係性に配慮し良好な生活が送れるように努めている。地域でのイベントや事業所での催し物に参加したり、地域の方々の協力を得ながら「共に暮らす日常生活支援」に力を入れている。また、職員は、利用者様との触れ合い・関わり合いの時間を増やしたり、定期的な研修会・勉強会を開催し、向上心を持ってサービスを提供できるように努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年となる本事業所は、職員の離職者も少なく定着率が高い。その結果として、経験の積み重ねが良いチームワークを生み出し、さらに利用者との馴染みの関係を築いている。事業所の理念を基に、ユニット独自の理念を作り、利用者の今できること、楽しいことを見つけ、日々の生活に生かすべく、きめ細かい個別支援に取り組んでいる。また職員自らが笑顔で接することで利用者の笑顔をひき出し、職員と利用者の関係だけでなく、利用者同士の関係性の配慮にも努力している。地域とのつきあひも徐々に広まってきており、様々なイベントを通しての交流や近隣とのつきあひから、住み慣れた地域で暮らし続けることの実現に繋げている。また認知症ケアの経験を活かし、他の事業所と協力して認知症カフェを開催するなど積極的に関わっている。管理者・職員は常に問題意識を持ち、前進を目指す姿勢から将来性が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で事業所理念を唱和する事で、理念を再認識しながら理念の実践に繋げる事が出来ている	事業所の理念を基に、職員全員で作上げたユニットの理念「今、できる事、楽しいことを見つけ日々の生活に活かす」「笑顔で仲良く」を目のつきやすい場所に掲示し毎朝唱和している。職員は常に笑顔を意識しながら、一人ひとりに合った個別ケアに取り組み、利用者同志の関係性を心掛けるなど理念の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや近くの農園で開催される音楽コンサートにご招待を頂き、事業所としてだけではなく利用者様が共に楽しめるように一緒に出掛けている。地域の方々に向けた事業所としての「秋祭り」を開催し地域の方との交流を図っている。	町内会の一員として夏祭りをはじめ地域のイベントには積極的に参加している。また近所の農業用ハウスで開催されるコンサートに招かれたり、野菜や果物の差し入れがあったりする。事業所の秋祭りには地域の方々に来てもらい交流をしている。日本舞踊同好会、自家菜園アドバイザーなどのボランティアや職員の子供・孫などの訪問があり交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の介護事業所・寒河江市と協同して、近くの商店で認知症カフェを開催した。地区の方々が多く足を運んで下さり交流しながら利用者様と地域の方と楽しい時間を共有できた			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の事業所の活動や取り組みなどを町内会長、民生委員、家族代表、市職員等と話し合い忌憚のない意見を頂戴している。「もっとこうすれば事業所としてステップアップできる」などとアドバイスを頂きながら日頃の業務に役立っている	運営推進会議には、町内会長、民生委員、家族代表、市職員が参加し2ヶ月に1回開催している。事業所の活動報告のほか、事故やヒヤリ・ハット事例も報告し委員から意見、アドバイスを受け、改善に努めている。議事録、報告書は必ず作成・保存している。今後は悪化予防や改善事例なども報告する予定である。		
5	(4)	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	寒河江市の高齢者福祉係のみならず、寒河江市の「介護事業所連絡会」等を通じて寒河江市の地域包括係との情報共有や協力関係を築き事業所運営に反映している	職員が参加した寒河江市主催の社労士による講演会はヒヤリ・ハット問題がテーマであったが、色々な角度からのアドバイスを受ける機会に恵まれるのも、寒河江市との連携、協力関係が十分機能していることを表している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関しては、定期的な勉強会や資料を基に再確認しながら、職員同士の様々な意見を取り入れ工夫する事でケアを行っている</p>	<p>勉強会やマニュアルを通し、職員は身体拘束の具体的な行為やその弊害をよく理解している。おむつ交換の際、暴行や暴言で抵抗した利用者については、繰り返し職員間で話し合い、研究しながら対応し、拘束をしないで改善した例があった。ただ事業所は市中の交通量が多い道路に面しており、危険回避のため同意書を得て施錠する場合もある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>今年度の事業所内部研修の一つとして「虐待防止」をテーマとして扱い、虐待防止を再確認する機会を設けている。また、「日頃のケアが虐待にあたらないか」等を自ら振り返り虐待防止に努めている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>利用者個々の置かれている立場を把握しながら、定期的に日常生活自立支援事業や成年後見制度についても学ぶ機会を設けている。勿論、必要性が生じた場合でも活用できるように支援できる礎を築いている</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>主に管理者は、契約の締結や解約、改定時に十分に説明を行っている。実際今年度は、新たに契約や解約があり、その際にも、しっかりと管理者から利用者やその家族に説明を行うと共に、不安や疑問点を尋ね、十分な理解・納得を得ている。内容に変更が生じた際は、同意書を頂いている</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に「意見箱」を設置しているが、直接利用者やその家族から意見を頂く事が多い。頂いた意見に対して、職員全体で情報の共有を行い改善を図っている。意見を下さった方だけでなく、運営推進会議、市、その他外部にも頂いた意見を開示する事で運営へしっかり反映するように努めている</p>	<p>意見箱を設置しいつでも無記名で投書できる体制を整えているが、殆どは、利用者から直接、あるいは家族の面会時に意見を聞くことが多い。家族の面会時には積極的に言葉かけし、意見を言いやすい雰囲気を作っている。共用室と居室の温度差があるという意見が出されたが、職員で話し合い素早く対応した例がある。また餅つき大会への招待や毎月のお便りを通して家族と交流の機会を作っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的に職員各々と個人面談を行い、普段の業務や定期的な会議においても意見や提案を聞いている。また、代表者も個別的に不定期ながらも職員各々と個人面談をしたり、アンケートを実施しながら、運営に寄せられて意見を反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に職員評価を行い、管理者・主任で協議した評価を基に左記の内容に沿えるように努めている		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、主に管理者・主任から情報を収集し、職員個々と面談する事で職員個々の力量の把握に努めている。不足部分だけでなくその職員がスキルアップできるように法人外の研修にも積極的に参加できるように進めている	代表者・管理者が定期的に個人面談を行い意見や提案をきいている。これが職員個々の力量把握の機会ともなりスキルアップに繋げている。風通しが良くなったという意見が多い。事業所では年4回職員の勉強会を開催するほか毎月ユニット毎の会議を開き、ケース検討を行っている。実践者研修など外部研修には該当者を派遣している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、積極的に同業者と交流を持つ事で繋がりが築けるように努めている。管理者が寒河江市の「介護事業連絡会」の役員となり市内の同事業所と交流する機会が増えた。職員も同業者同士の研修会にも積極的に参加する事で、事業所としてサービスの質の向上にも繋がっている	同一法人内の事業所との交換研修だけでなく、管理者が寒河江市の「介護事業連絡会」の役員を引き受けたことで、同業者との交流の機会が増えた。共同の研修会への参加を通して職員は切磋琢磨し、サービスの向上に努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人がお話しできる状況にある時は、耳を傾け要望等をお聞きし安心できる関係づくりに努めている。思いを伝える事が困難な時は、担当ケアマネージャーや相談員、ご家族やその関係者から情報を収集しご本人の要望に近づけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安な事に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。サービスに対する要望をお聞きし、ご本人にとってよりよいサービスとなるように協力し本人を支えている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身の状態を「アセスメント」し、今必要としている支援を行う為に、同法人の「看護師」「作業療法士」を含め、職員間で情報を基に協議しながら、幅広いサービスとなるように心がけている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする中で出来る事を一緒に行っている。調理の下準備や洗濯たたみ、畑の収穫、日々の体操やカラオケ大会など普段何気ない生活を通じて良い関係性が築けている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を取り合いながら、いつでも気軽に来られる環境づくりに努めている。情報を共有しながら「共に本人を支えていく関係」を築いている			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人・場所に個別的に会いに出かけられるように支援している。外出自体が困難な方に対しては、面会に来て頂き、お部屋で談笑できるようにしている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮しお互い安心できるスペースを保てるよう食席配置などを工夫している。時に関係性が芳しくない時には職員が間に入り良好な関係が保たれるようにしている			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて、サービス利用時の情報を提供したり相談に応じたりしながらご家族をフォローしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、可能な限り尊重し外出やレクリエーションの参加・食事の場所や過ごす場所などを、無理強いすることなくご本人の意向に沿えるようにしている	入所前の事前面接で、これまでの生活の様子・趣味・本人や家族の思い・意向を把握している。利用開始後は日々の暮らし中で、会話や表情・仕草から、できる事、好きなこと、要望などを汲み取りアセスメントシートに本人の言葉で記載し、全員で話し合い、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からこれまでのご本人の生活歴を伺い、これまでの生活環境の把握に努めている。以前利用していた事業所からも情報収集を行いサービス利用経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を観察し、またお話しする中で、ご本人の心身の状態や現有能力の把握を実施している。小さな変化でも見逃されることが無いように職員間でも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向をお伺いし、担当職員を中心に協議しながら介護計画書を作成している。ユニット会議でも担当職員以外からの気付きやアイデアの意見を取り入れながらモニタリングを行い現状に即した介護計画書となるようにしている	モニタリングは毎月行い、ユニットごとにケース検討会で全員で話し合っている。特に変化がなければ半年ごとに家族が参加してのサービス担当者会議で意見や要望を聞き、介護計画の見直しを行っている。介護計画は、本人が今できることを大切にして暮らしの中に取り入れ、本人や家族の言葉で表現し現在の生活が見える介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を活用し、その中で実践状況や気づき、ご本人の変化を特記事項欄に記入をしている。その他にも口頭での申し送りや連絡帳の活用を行い、情報の共有をしっかりと行う事で、介護計画書の見直しに活かしている		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方との交流、子ども神輿や太鼓屋台も寒河江祭りの際にホームに訪れるなど地域の方との交流が増えてきている。お隣さんから畑作りの助言もあり、ネギや里芋をご厚意で頂戴する事もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人・ご家族の意向を尊重し、ご家族に協力を得ている。かかりつけ医へはご本人の心身の状態を文書等でお伝えし、主治医との連携を図っている。受診対応が困難な場合は事業所の協力医に往診して頂きその結果をご家族に報告している</p>	<p>通院は家族の付き添いが原則となっているが、職員が付き添う場合もある。受診の際は日頃の様子やバイタルなどを記載した「情報提供シート」を持参し、診察の参考にしている。主治医の中には診察結果を記入の上返却してくれる方もおり家族から喜ばれている。受診結果は電話や文書で家族と共有している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は心身の状態変化や気づきをホーム看護師・訪問看護師に伝え相談している。24時間体制での連携を取りながら急な変化や非常事態が生じた際にはすぐに相談し指示が得られるように支援している</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の情報提供書・看護、介護サマリーを活用しながら情報交換を図っている。入院時は、病院にの関係者と情報の共有を図り早期退院が出来るように努めている。退院・転院の際には、スムーズに物事が運ぶように協議・話し合いを行い、情報収集に努めている</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「重度化した場合、終末期に向けた方針」はご家族に示しているものの、事業所としての方針が不明確な部分が見られ、方針を定めた上で、具体的な支援体制をしっかりと整備していく必要がある。その上で、関係者と事業所としての方針を共有し、重度化や看取り期の支援実施を図っていく必要がある</p>	<p>利用開始にあたり、契約の際に契約書別紙に「重度化した場合や終末期における対応に係る指針」が明記されており、本人・家族に説明し同意を得ている。事業所としてこれまで看取りの事例はないが、家族の希望があれば対応する方針で、看取り支援体制の整備を進めているところである。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署員によるAEDの使用方法・心肺蘇生法の講習会を行い再確認をしている。急変や特変時の講習会や勉強会も実施しているものの不定期開催となっている為、職員の中には不安を感じる者もいる為、定期的の特変や急変時の対応についての講習会をしてほしいとの声も上がっている</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練については、毎年2回実施されている。しかし、水害・地震想定マニュアル作りはされているものの訓練はなされていないのが現状である。地域との連携や備蓄食料の手配、避難受入れ先を含めた整備と訓練が必要だと感じる	年2回、内1回は消防署や地域の参加を得て火災想定避難訓練を実施している。水害に関しては寒河江市の水害地域にはなっていないが、市主催の勉強会に出席し水害体験をした介護事業所の経験談を聞く機会を得た。事業所は寒河江市の危機管理センターの防災無線の範囲にあるが、この度、寒河江市栄町自主防災組織が発足したので加入した。有事に備え発電機、水、食料の備蓄は準備されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活や性格に合わせた対応を行っている。かける言葉やタイミングを見計らいながら、場面に応じて、本人の誇りとプライバシーに配慮している	職員は研修やマニュアルにより、利用者の人格を尊重し、不適切な言葉かけのない対応に努めている。不十分な対応がみられた場合は管理者、主任という上からの注意だけでなく、職員間でも互いに注意し合えるという横の連携とチームワークが形成されている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活スタイルに合わせ、無理強いすることなく、利用者様本人が自己決定が行えるような環境作りを心がけている			
37		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を伺いながら、ご本人の立場に立って物事を考えるように心がけている。業務優先ではなく、一人ひとりに臨機応変に対応できるように支援している			
38		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な衣類身に着けて頂き、その日着る物をご本人に選んで貰ったり、洗面台で身だしなみを自分でチェックできるように支援している			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで収穫した野菜を使ったり、季節の「漬物」づくり等を自分たちで行い味わたりしている。個々の能力に合わせて食事の下ごしらえや後片付けも行って頂いている	今年1月から宅配システムを導入したが、管理者・職員は調理の匂いが漂う場所への思いが深く、週2回はユニット毎の手作りメニューを取り入れ、また誕生日、行事食、流しそうめんなど、利用者と一緒に作り、食事を楽しむ機会を創出している。自家菜園で収穫する野菜を使った漬物づくりは掲示された写真からも楽しんでる様子が生き生きと伝わってくる。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定を実施しながら、その方に適した量を提供しており、水分摂取量もその方に応じてチェック表を活用している。進んで水分を摂られない方に好みに応じた水分を提供したり、低たんぱく気味と医師に言われた方に対して食事とは別に、捕食を提供する等工夫しながら支援している			
41		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に応じて声掛けや部分的な介助を行っている。歯磨きや口腔ケア自体を嫌がる方に対しては、時間や対応する職員を変えながら、清潔な口腔状態が保てるようにしている			
42	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの能力や排泄パターンに応じながら、排泄チェック表を活用し、声掛け・誘導を行っている。トイレまでに合わず失禁してしまう方に対しても、清潔な状態が保てるようにさりげない交換介助を行っている	排便は全員、排尿に関しては必要な利用者に排泄チェック表をつけ、排泄パターンを把握して、適時の声掛けや誘導により、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。病院から退院した利用者がおむつから綿パンツになった例もある。		
43		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味になる方が増えてきている。乳製品を提供したり、水分をまめにとって頂き、適度な運動を実施し工夫を凝らしている。それでも、便秘気味の方については、主治医に相談して便秘薬を調整して貰うなどして、スムーズな排便がなされるように努めている			
44	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の入浴希望に沿えるように努めている。浴室の希望(檜風呂・機械風呂)も考慮しながら、その方の身体能力や体調に合わせて入浴して頂いている。長めの入浴が好きな方に対しては、体調面に影響が出ないように細心の注意を払いながら心置きなく入浴して頂いている	最低でも週2回は入浴ができ、希望があれば増やすことも可能である。機械風呂と檜風呂の2種類があり、利用者の希望に添えるよう考慮されている。脱衣場も浴室も暖房設備が整っており心地よく着脱、入浴することができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々気分次第で自室やソファで自由に寛いで頂いている。安心して気持ちのいい眠りがなされるように適宜シーツの交換を行い寝具を整えている。照明の明るさ、室内の温度や湿度も各々に合わせて調整している		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されると、薬情報書や受診記録・連絡帳を活用しての周知と理解がなされるようにしている。内服介助の際も内服チェックシートを利用してその都度確認を行っている。例えば、お薬が変わった事で状態に変化が生じた場合は、主治医に報告し指示を仰いでいる。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力にあわせ、食器拭きや食事の下準備を行って頂いている。各々の現有能力に応じ、塗り絵・新聞たたみ・ゴミ箱づくりなど出来る作業を行って頂いている。ユニットに掲示するはえり絵については、紙をちぎる役割や貼り付ける役割などを合わせて作品を完成させることで達成感を共有している		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行が達者な方で、気分転換に散歩に出かける時は一緒にホーム周辺を散策したりしている。自力歩行が厳しい方は、車でのドライブや車椅子での外出を行っている。また、ご家族様に協力を頂きながら馴染の理美容室や外食等へ出掛けしている	事業所の車で利用者全員で桜、あじさい、芝桜などのお花の名所に出かけるほか、日常的に個別支援として近所を散歩したり、買い物に出かけたり、喫茶店でコーヒーを楽しんだり、外出を楽しんでいる。庭の東屋は畑仕事の合間に集ったり、気軽に外気に触れる場所である。家族の協力を得ながらなじみの美容院やお墓参りに出かける利用者もいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本当に少額程度現金を手元に持っている方はいるものの、ほとんどの方が「預り金」という形で事業所での現金管理となっている。利用者様には、事業所での預り金がある事をお話しし、欲しいものの希望があったり、衣類購入や日用品、理美容代などご本人の要望にそって使用させて頂いている		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を使ってお話しする事が年々厳しくなってきたが、本人の要望があれば取り継ぎを行っている。年一回、直筆の年賀状をご家族に送っており、ご家族様からも頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース正面に共同作業で作成した季節の貼り絵を掲示する等で季節感を感じて貰っている。廊下にも日々のホームでの活動の写真を掲示し、それを見ながら話が弾んだりする事もしばしば。玄関先や軒先・テラスに自分たちで植えた鉢植えやプランターを置いてそれを眺めながら和むことも多々見られる	共用空間は温度・湿度は細やかに管理されている。冬場の湿度対策は3台の加湿器で、夏の日差しはすだれで対応する等配慮がなされている。テーブルに集まった利用者は冬季オリンピックをテレビで観戦しておりお互いの会話で賑わっている。利用者の作成した貼り絵が季節感をもたらし、壁面には行事の際の思い出の写真が飾られている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが狭い事情があるものの、テーブルなどの配置を工夫し、気の合う利用者様が作業レクリエーションやお茶のみが出来るように配慮している。居室に仲のいい方が訪れた時も談笑しながら御茶飲みして貰っている		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁にご家族様との写真を掲示して、ベッド周辺にはご本人が馴染み深く使い慣れた物を置くなどして本人が使いやすい様に配慮。布団も自宅で使用していたものを持ち込んでもらっている	布団は全員自宅で使用していたものを持ち込んでいる。家族の写真を壁に掲示し、利用者の使い慣れたラジオや置物などがおいてあり、居心地良い自分だけの部屋が作られている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢になり、足元が不安な方が手すりに掴まりながら自分のペースで歩けるように見守りしている。居室の入り口が全室同じ作りになっている事で迷ってしまうように目印をつけ自室がわかるようにしている		